

## 1 趣 旨

- ・ ボランティア活動に必要な知識や技能の向上を図り、ボランティアとしての資質を高め、広く社会でボランティア活動に取り組める青少年を育成する。
- ・ 法人ボランティア登録を促し、施設の事業に協力しようとする青年を育成する。

## 2 ねらい

- (1) 自然体験活動でのボランティアに必要な知識や技能の向上を図る。
- (2) 自然体験活動でのボランティアとしての資質や態度を養う。
- (3) 参加者同士で相互理解を深め、コミュニケーション能力を高める。

## 3 日 程

- (1) 期 日 平成27年5月29日（金）～31日（日） 【2泊3日】
- (2) 参加者 66名（大学生64名, 社会人2名） ※募集60名
- (3) 研修内容及び講師

1日目 (5/29)	夜	○受付 18:30・開講式 19:00 ○「ボランティアってなあに」(ボランティア活動の意義)講師:ボランティアセンター 茂尾亜紀 ○「広がれ！のとボラのWA！」(青少年教育施設におけるボランティア活動) 指導:交流の家職員
2日目 (5/30)	午前	○「リスクマネジメント」 講師:交流の家職員 ○実習「野外炊飯」カレーライス 指導:交流の家職員
	午後	○「体験しながら学ぶ」(青少年教育施設の現状と運営) 講師:交流の家 次長 ○実習「ウォークラリー」 指導:交流の家職員
3日目 (5/31)	夜	○「広がれ！のとボラのWA！」(ボランティア登録)指導:交流の家職員 ○「体験で育つ子どもを支えるには」(青少年教育の理解) 講師:富山大学 松本謙一
	午前	○「救命救急法講習」(含むAED) 講師:日本赤十字社石川県支部指導員
	午後	○選択実習「アーチェリー・いかだ体験」 指導:交流の家職員・外部講師 ○「広がれ！のとボラのWA！」(プログラムデザイン)指導:交流の家職員 ○閉講式 16:00・解散 16:30

## 4 成果と課題

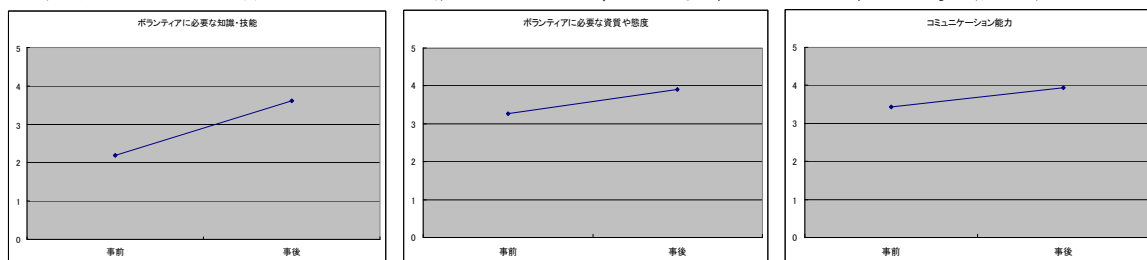
- (1) アンケートによる事業評価

教育事業アンケートと社会性スキル尺度アンケート（事前・事後）の2種類を実施した。教育事業アンケートの満足度は、事業全体、職員の指導・助言等に関しては100%、プログラムでは97.0%、運営では98.5%を達成することができた。

<参加者の記述より>

- ・ 野外炊飯やウォークラリーなど他大学の人と関わりながら楽しむことができた。
- ・ スタッフや参加者、一緒に宿泊した他団体を含め、皆が優しく暖かい雰囲気だった。
- ・ 今までは「してあげるもの」だと思っていたが、ボランティアへの考え方が変わった。
- ・ 意識があるときの対応、回復体位への変換を実際に体験できてためになった。
- ・ 子どもの質問への答えを考える実習があり、子どもへの接し方・考え方を学ぶことができた。

社会性スキル尺度アンケートは、「ボランティアに必要な知識や技能（11項目）」「ボランティアとしての資質や態度（16項目）」「コミュニケーション能力（8項目）」の35項目を質問紙法によって調査した。それぞれ「きわめてあてはまる・かなりあてはまる・わりとあてはまる・少しあてはまる・まったくあてはまらない」の5段階で自己評価した。事業開始時と終了時に同じ内容のアンケート調査を実施し、その変化をグラフ化した。（図1）



(図1) 事前・事後アンケート結果の変化(5段階)

- 本事業の3つのねらいについて、事前と事後を比べるとそれぞれ向上している。中でも、知識や技能におけるポイントの向上が顕著である。ボランティアに必要な知識や技能が、体験を通して実感できるように日程を組んだことがその要因であると考えられる。

## (2) 成果と課題

### 《成果》

- 専門員を招聘した講義「ボランティア活動の意義」では、ボランティア活動の実際について具体例を交えて展開していただいた。講義にグループワークを取り入れることで、参加者は考えを述べたり行動したりするこの大切さを実感することができた。
- 実際にプログラムをデザインする活動を通して、参加者は、一つ一つの活動にはねらいがあり、子どもの成長を目標にしていることに気づくことができた。

### 《課題》

- 参加者が充実感を得られるプログラムであるが、スケジュールが少しくついため、プログラムデザインに割く時間がもう少しあるとよい。活動内容を検討して、さらに充実した日程にしていきたい。

